

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-国際科目-専門基礎科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	寺田 実		
居室	西2-611		

公開E-Mail	授業関連Webページ
terada@ice.uec.ac.jp	http://pr.ice.uec.ac.jp/~terada/lectures/literacy/

【主題および達成目標】
<p>コンピュータの利用方法を学ぶ。 デジタルネットワークインフラが整備され、コンピュータの利用技術は計算や文書処理からコミュニケーション手段を包含した情報処理に広がってきている。 そこで、本授業では、コンピュータシステムの基本事項を理解することに加え、このような情報ネットワーク社会における、情報の生成・共有・伝達のためにコンピュータを積極的に活用できるようになることを目的とする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
<p>教科書：渡辺成良・若月光夫・織田健 / 共著 「UNIX コンピュータリテラシー（第2版）」（共立出版）</p>

【授業内容とその進め方】

授業では総合情報処理センターのUNIXのマルチウィンドウ環境を利用し、WWW教材の自習と演習を行う。このため、自分のペースで理解を深めることができる。

また、個別学習を支援する体制として、授業担当教官のほかに、Teaching Assistant(TA)が学生の疑問に十分答えられるように配慮されている。

以下の項目について、演習を中心とした学習を行う。

- 1 システムを利用する前に
- 2 システム利用の基本事項・文書の編集
- 3 ファイル・日本語入力
- 4 電子メール
- 5 UNIXの基本コマンド
- 6 UNIXのプロセス
- 7 ディレクトリによるファイル管理
- 8 ファイルの共用・保護
- 9 コンピュータネットワーク
- 10 情報検索
- 11 環境設定
- 12 LaTeX
- 13 復習・参考

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法:

授業には特別な事情がない限り出席すること。演習課題のレポートはすべて提出すること。これらの条件を満たした学生について、期末試験の結果によって成績をつける。

評価基準:

授業で取り上げた各種の利用操作を習得していること
(編集, 日本語入力, メール, ファイル管理, 文書作成など)

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

コンピュータが普及し、多くの1年生はコンピュータを使った経験があるのではないのでしょうか？しかし、UNIXを使った経験のあるひとはあまりいないでしょう。

この授業では、皆が初心者です。大学における学習や研究において必要となる最も基本的な事柄について学びます。積極的に学習に取り組み、確実に自分のものにして下さい。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】